

かたづけができるようになること

年少組の子どもたちが色水を作って遊んでいました。

10時を過ぎたところに、先生が「お片付けの時間だよ。」と声をかけました。

「この台は、向こうに、お願いします。」と先生が言います。そうすると、子どもたちはテーブルを片づけ始めました。椅子を重ねて運んでいる子もいます。

先生が、「ありがとう。」と言います。

そして次に、「だれか、このバケツを運ぶのを手伝ってくれる？」と声を掛けます。また何人かが手伝います。「ありがとう。助かるな。」と先生は言います。あたりまえのことのようですが、なかなかこんなふうにはいきません。

ただ「片付けをしましょう。」ではなくて、先生と一緒に片付けをしながら、子どもたちが何をすればいいのかを具体的に教えていきます。ですから、子どもたちは一生懸命片付けをします。

子どもは、おもちゃを箱から取り出すことは自発的にできます。遊ぶために必要なプロセスだから、教えなくても習得します。でも、終わった後に片づけることは、「しつけ」をしないとできるようにはならないといわれています。(池谷裕二『パパは脳研究者—子どもを育てる脳科学』扶桑社、2020年)

先生方は、毎日の遊びや生活の中で、子どもたちが良い習慣を自然に身に付けられるよう繰り返し丁寧に指導しています。



「他の人のもあげるんだー。」



連休明け、年長組の子どもたちが植えたジャガイモが一斉に芽を出しました。子どもたちは、幼稚園に来てリュックやお弁当を自分のロッカーに入れたり、シールを貼ったりすると、すぐに園庭に出てきます。そしてジャガイモに水をあげに行きます。

昨日の朝は、男の子が最初に出てきました。「ぼく、一番に水、あげるんだ。」と、うれしそうにジョウロで水をかけ始めました。そして自分の植えたジャガイモに水をあげると、すぐに「他の人のもあげるんだー。」

と言って、友達ジャガイモにも順番に水をかけていきました。小さなジョウロですから、何度も水道に戻って水を汲んで、水をあげています。そうしてその子は、畑のジャガイモの芽全部に水をあげると、うれしそうに保育室に戻っていきました。

たくさん子どもたちが集まる幼稚園では、こういう素敵な姿をたくさん見ることができます。